もみじ福祉会　ニュース

がんばろうや

2012年1月　第60号

発行／社会福祉法人 もみじ福祉会

MOMIJI

第一もみじ作業所（生介）　第二もみじ作業所（生介）
第三もみじ作業所（就移・就継B）　福祉ホーム　夢トピア
ケアホーム　つばさ／たんぽぽ／夢トピア／ドリームハウス
もみじヘルパーステーション夢トピア
障害者生活支援センター　めーぷる
放課後対策事業　のびのび／わくわく
〒730-0823　広島市中区吉島西２－１－24
TEL082-243-0331 FAX082-243-0497
HP:fukushi-momiji.or.jp

もみじ福祉会の目指すもの（骨子）

私たちは、障害者も含めた地域で生活するすべての人たちが、文化的で平和な環境の下、自らの心と身体、そして人生の主人公として暮らせるための総合的な権利保障を目指し、以下の事に取り組みます。

1．仲間（利用者）の生きる力の充実と生活の質の向上を目指します。
2．地域の生活と福祉の向上への貢献を目指します。
3．事業の民主的な運営と地域の諸団体との協力・共同を大切にします。
4．これらの実践の要となる、職員の、障害や発達保障、福祉や障害者運動についての専門性の向上につとめます。

新たな旅立ち

もみじ福祉会の更なる発展をめざして

もみじ福祉会 理事長
浜崎 勝

新しい年を迎え、新たな気持ちで、もみじ福祉会のめざすものを自らの目標と重ねみなさんと共有したいと思います。

もみじ福祉会は、三十周年を経過し大きな節目・転換期を迎えています。

障がいのある仲間や保護者の願いと障害福祉の動向を見据え「3・4・5大作戦」を実現させ、併せて十四の事業を拡大してきた成果と同時に八十名を超える障害のある仲間・保護者、そして百名を超える職員の大所帯として発展してきました。同時に運営や実践・コミュニケーションのあり方にかかわる発展的な課題を抱えてきました。

こうした時だからこそ「はたらく・くらす・いきがい」を改めて問い直し、しっかりとした共通理解・認識にたちコンセプトを確認し合いたいと思います。

●仲間たちの自分らしく生きる一番の支えとなり原動力となる「はたらく」問題は、念願の第三作業所の開設・「こねこね工房」で長年の夢が実現し大きな発展をみました。運営上、当然のこととは言え第一・第二と第三が分離したことで「仲間の給料」問題が生起しました。仲間にとっては大変な問題です。給料だけが「所得保障」ではありませんが、改めて障害者問題は「貧困問題」だと実感します。この問題は、「もみじに在籍している仲間」だけの「給料問題」としてだけではなく作業所への入所を希望する障がいのある人の「はたらく問題」としての大局的な問題として、またもみじ作業所としては「発展的・過渡期的な問題」として捉え、取り組むことでみんなで乗り越えたいと思います。事業を起こして「一定の成果」がでるまでには時間がかかります。「せんべい」の起業とも併せてみんなで頑張り解決したいと思います。仲間たちの「高齢化」の問題もありますが、「仕事起こし」へのチャレンジ精神をそのことに理由づけて萎えさることだけはしたくありません。

●「くらす」問題は、仲間の自立と併せてハード面での「生活ホームづくり」とソフト面での「豊かなくらし」「豊かな命」が問われます。ここでも仲間と保護者の「高齢化」への対応が重なります。高齢化に伴う「医療との連携」、支援体制としての職員体制の充実と支援力の人材育成への取り組みも不可欠です。

●「いきがい」の問題は、「はたらく・くらし」にも重なる問題ですが、更に「余暇活動」や「自分らしく生きる」まさに「生活の質（ＱＯＬ）」にかかわります。ある意味では、人間らしく豊かに生きるためのトータル的な大事な問題です。

現代は情報化時代です。テレビ・パソコン・携帯電話など情報機器を活用し便利な時代です。しかし一方では「情報化時代」は、逆に「人間とのかかわり」を薄める役割を果たしています。日々の人同士のかかわりが「疎遠」になる状況が進んでいます。情報とコミュニケーションの違いをある研修会で学びました。情報は「機械的に伝える機能」が中心だが、コミュニケーションは、その基底に「愛と希望と勇気」があると学びました。私たちの仲間や保護者や職員、そして地域の人や支援者とのかかわりでの「コミュニケート」する基底として、また新たな展望を開くものとして今年度もがんばり合いましょう。

今こそひとつになりましょう

ひまわり会 自治会 会長
小坂 泰嗣

あけましておめでとうございます。

昨年は東日本大震災があり、これが現実の光景かと、本当に恐ろしかったです。それ以来、我が国はめちゃくちゃになってしまいました。原発事故の風評被害で広島にも外国人観光客が来なくなり、平和資料館の売店で販売している私達の平和Ｔシャツの売り上げも大きく下がっています。日本中が少なからず被害を受けています。

健常者も被害にあっていますが、避難所にも入れない障害者がいます。みんなが大変なのに福祉どころではないと、障害者は復興から取り残され、もとの生活には戻れないでいます。

さて、障害者自立支援法廃止を約束した内閣はさっさと退陣して、福祉をめぐる環境はまた厳しいものになっています。この度、自立支援法に代わる総合福祉法の骨格提言がまとめられましたが、厚生労働省の中の話し合いでなしくずしにされる恐れがあります。今こそ、私達は、それぞれのわだかまりを忘れて、一つになって、骨格提言の学習をし、市民や行政に発信していく必要があると思います。今が一番大切なときです。

僕が無認可のもみじ作業所に入った一九八四年は、古い木造の建物の一部屋を借りて、仕事もトイレもお弁当も、朝の会も終わりの会も一つの狭い部屋の中でしていました。エアコンもありませんでした。休日は運営費を作るためのバザーをしながら、作業所の法人化を訴えてきました。法人化という、一つの目標に向かって、関係者一同、心を一つにして取り組んでいました。

歌を作り、歌い、コンサートを重ねる中で、もみじ作業所の歌声文化を築いてきました。

歌声運動や街頭募金、署名活動を通して、支援者を増やしてきました。法人化後のホーム建設においては更なる支援者たちを集めました。

今は事業も規模も拡大したもみじ福祉会において、全員が同じ方向を向いて進むのは、かなり難しくなっています。しかし、今、私たちが心を一つにして、できることは何でもして、総合福祉法をちゃんとしたものにしないと、もみじの三十年余りの運動が無駄になってしまいます。障害者の未来はなくなってしまいます。

目標達成までには幾多の困難が予想されますが、皆様、ご支援をよろしくお願いします。

みんなにインタビュー

神話上の生き物…ということもあり
ちょっと神秘的なイメージがありますが・・・

もみじ福祉会 専門委員会 紹介 ①

地域福祉推進委員会

もみじの仕事は 人づくり 夢づくり まちづくり 仲間づくり

もみじ福祉会には、理事会の専門委員会として、七つの委員会が活動しています。（将来構想検討委員会、人事委員会、広報委員会、苦情解決委員会、安全対策委員会、健康推進委員会、地域福祉推進委員会）

今回は、この内、地域福祉推進委員会の活動を紹介します。

地域福祉推進委員会の目的は、大きく分けると①地域との連携＝地域に根付き、地域貢献をめざす。②社会保障・福祉の向上をめざす、の二つです。

地域に根付く

月1回行われるミニミニバザール

●地区社協の諸行事（とんど祭り、飯盒炊さんフェアなど）の準備会に参加するとともに、作業所製品も出店。

もみじ作業所まつり

●「もみじ作業所まつり（吉島）」や「夢フェスティバル（観音地区のケアホーム夢トピア、ドリームハウス、第三作業所の祭り）」の実施においては、地区民協や女性会、町内会役員、地域有志団体等に実行委員会に加盟いただき、地域の協力を得て協同で企画・実施。同時にボランティア講座等も実施。恒例の「激安バザー」や「神楽上演」は地域の皆さんから楽しみにして頂き黒山の人だかり。

二〇一一年のまつり収益は東日本大震災の障害者支援に募金しました。

今年も太鼓のお姉さん頼むで！

もみじ福祉会も多くの施設と同様に、地域行事に積極的に参加したり、協働すること、できれば貢献できることをめざし、「もみじ福祉会があってよかったよ」と言って頂けるように頑張ります。

もみじ作業所って楽しい所ね

他にも、例年の活動として、地域の諸小学校との施設見学会や交流会を開催し、互いの理解と啓発に努めています。また、市社協の「優しさ発見プログラム」、障害者福祉はもちろん、社会保障・福祉の向上や発展のためには「職員は仕事だけしていればよい」という訳には行きません。閉じこもっていては、仲間たちの「夢をかたちに」することはできません。

国・県・市・町等の行政のあり方や制度の創設・改廃などは、仲間の生活に直接関わる大問題だからです。

福祉の向上を

○障害者福祉はもちろん、社会保障・福祉の向上や発展のためには「職員は仕事だけしていればよい」という訳には行きません。閉じこもっていては、仲間たちの「夢をかたちに」することはできません。

国・県・市・町等の行政のあり方や制度の創設・改廃などは、仲間の生活に直接関わる大問題だからです。

○そこで、当委員会では、加盟する上部団体（きょうされんなど）や地域の障害者団体、関係団体と積極的に協力共同し、仲間・家族、福祉労働者の声を行政や市民にしっかり届けようと取り組んでいます。

仲間（利用者）の自治会の中にも、「夢をかたちに委員会」や「きょうされん虹の会担当」があり、この仲間・家族とともに署名活動や請願（要請）活動、対県・対市交渉、情勢学習や要求集会への参加、あるいは街頭署名・カンパ活動などに取り組んでいます。

街頭署名活動

○ここ数年は、障害者自立支援法の問題に関わる学習会や要求運動に力を注いで来ました。「運動は裏切らない」を心に据えてがんばっています。

特に二〇一一年は、東日本大震災の被災障害者支援のための人的支援やカンパ活動に力を注ぎました。

○吉島地域で十八年、観音地域で七年の歳月が流れました。徐々にそれぞれの地域の方々に知って頂き、根付いてきたと思います。今後は、一層、民生委員さんや社協の活動、他の福祉団体・事業所等と連携した活動を目指し、障害者や高齢者に優しい地域づくり国づくりに少しでも貢献して行きたいと願っています。どうかよろしくお願いします。

被災地報告・続編

宮城 北部支援センター
9月10日～18日
上田 健司

10.28支援法大フォーラム

宮城県登米市にある「みやぎ

その次の日からは気仙沼にある「ワークショップひまわり」と言う作業所での支援がスタートした。登米市から車で一時間程度。行く道は海沿いで津波の

研修報告

きょうされん 第34回全国大会 in 滋賀
2011年10月22・23日（琵琶湖ホール）

琵琶湖が目の前に広がる大津市のびわ湖ホールで行われた「きょうされん三十四回全国大会」に参加しました。全国から、障害のある仲間九百名を含めた二千五百名を超える参加者がありました。

オープニングはハンドベルの素敵な演奏でした。基調報告では、常務理事の藤井克徳氏による福島県の事業所利用者の方が東京電力に送った手紙の朗読があり、障害があるが故に犠牲者と

度検証を求めなければならないと強調されました。又被災地からの報告では福島の佐藤氏の「風評被害で商品が売れない」と言う言葉が印象に残りました。

記念講演では米良美一さんの「生きながら生まれ変わる」をテーマにされたお話で「もののけ姫」のテーマソングを歌われたオペラ歌手からは想像も出来ない苦しみに満ちた人生の告白に信じられない気持ちでした。

二十二会場の分科会があり、

フレフレ MOMIJI 応援団

『もみじ応援隊員』

鷲見 信子 さん

約八年前の初孫が産まれる頃、もみじ作業所さんとの付き合いが始まりました。

当初は、アルミ缶を自宅分のみ回収をお願いしていましたが、ご近所の皆さんがどこから話を聞かれたのか、木の枝のように人から人へと話が伝わり、今ではたくさんの人がアルミ缶を持って来てくださいます。今の時代、ご近所付き合いがあまりなくなっていますが、今後歳を重ねてからの助け合いの為にも、ご近所付き合いはとても大切だと実感しております。

最近では、家族がパン好きな事もあり、よく「こねこね工房」へと足を運びます。パンの種類がたくさんあり、どれも美味しいのでいつも迷います。私の一番お勧めはクロワッサンです。外はカリッと中はフワッとしており、絶品です。出来ればもう少し数を多く焼いて頂けると、とてもうれしいです。もう一つ好きなのは、コーヒーです。お店で飲むコーヒーがとても香りがよく美味しいのです。聞く所によると、家庭で飲むコーヒーとは豆が違うとの事です。皆さんも一度飲んでみてはいかがでしょうか？

私の活動は、皆様から比べると、本当にちっぽけな事ですが、「なかま」を応援したい一心です。今後も微力ながら、もみじ応援隊員として、手助け出来ればと、思っております。

hap チイサナアイノテンランカイ

もみじのなかま❤たいけき展

2012年2月7日（火）～12日（日）

昨年のギャラリーG『ちょがっぽはーと展』に
ひきつづき、今年も、もみじ作業所さをり・縫製
グループ展示会をアートスペースhapで開催いたします。
さをり織り・縫製品、そして絵画による商品も展示
販売します。みなさま、ぜひ、足をお運びください。

アートスペースhap: 広島市中区鶴見町2－24－101
（鶴見橋西詰め100m道路沿い）

張っています。

アルミ缶回収はふれ合いの場

例えば・・

●町内会に加入し、地域の盆踊り大会（吉島西、観音）などに職員や利用者が要員として参加（派遣）するとともに、作業所製品も出店。必要な器具・備品等の貸し出し等も協力。「今年も太鼓のお姉さん頼むで」と期待の声も。

ム事業」を活用した学校の車イス体験事業に出張したり、地域の中学校の職場体験実習などを積極的に受け入れています。

アルミ缶たまってるよ！

事業面では、作業所のリサイクルグループは、アルミ缶やウエス材料の収集に町内の皆さんや、お店、マンション、小学校などの理解と協力を得、仲間（利用者）が地域の皆さんや生徒とふれ合う大事な機会となっています。

また、この四月に開所した第三もみじ作業所では、地域への配食サービスを徐々に広げています。他にも、市から委託を受けて「障害者生活支援センターめーぷる」では三百六十五日二十四時間体制で、障害者何でも相談を行っています。

ワークショップひまわりにて

北部支援センター」を本拠地に気仙沼市・南三陸町周辺の支援員として参加させてもらった。

震災のあった日からちょうど半年に当たる日。行く前には大分片づいたと言う話も聞いていた。しかし、活動初日の視察でその風景に愕然とした。言葉では表現出来ない風景、もちろん今までみたことのない情景だった。被害を受けていた。作業所では仲間達が何もなかったように仕事をしていたが、休憩時間に話をしていると津波被害の様子が伺えた。一人の仲間が「これをみて。」と話してくれた。そこには写真があり「私のお母さん。写真があったんよ。津波の時に麻痺があったからベッドのまま流されたんだけど。」この話を聞いたときに視察で見た風景と様子が自分の中で大きく重なった。

しかし、こういった中でもみんなが本当に前向きになっている様子が伺えた。これから自分が出来ること、それは少しでも多くの人に見たこと思ったことを伝えていくことだと言うことを感じた。

なったり不利益を被る事に、再

私は「暮らし・住まい―こんな

いました。

（半田久仁恵）

滋賀県のびわ湖ホールをメイン会場にして行われた、「きょうされん第三十四回全国大会IN滋賀」に第三作業所の仲間二人とともに参加してきました。

私はきょうされんの全国大会に参加するのは初めてです。道中、新幹線で広島の作業所の方たちと合流して楽しい会話とともに目的地まで向かいました。

メイン会場のびわ湖ホールでは全体会が行われ、地元の作業所の仲間によるオープニングセレモニーが披露され、会場からは惜しみない拍手を浴びました。

記念講演は歌手の米良　美一さんが講演され、御自分の生い立ちも含めて時には笑いで、時には感動で会場を沸かせ、いい講演を聞かせていただきました。

その後の分科会では「働く、給料」の分科会に参加して勉強させていただきました。本年度のテーマは「働きがいのある労働・人間らしい労働・誇りのある労働」でした。分科会では全国の作業所の実践をレポート発表中心に展開していきます。フロアからも活発な質問や意見があり会場は熱気で包まれます。その中でも一番興味深かった発表は私の作業所と同じく、パンの製造と販売を手掛ける授産施設のレポート発表でした。一年目は六百万円の売り上げから十年目には売上六千万円と大躍進を遂げた作業所がありました。働く場の意識は「作業から仕事へ」仲間の仕事に対しての考え方は「利用者から労働者へ」と変化を遂げていったそうです。

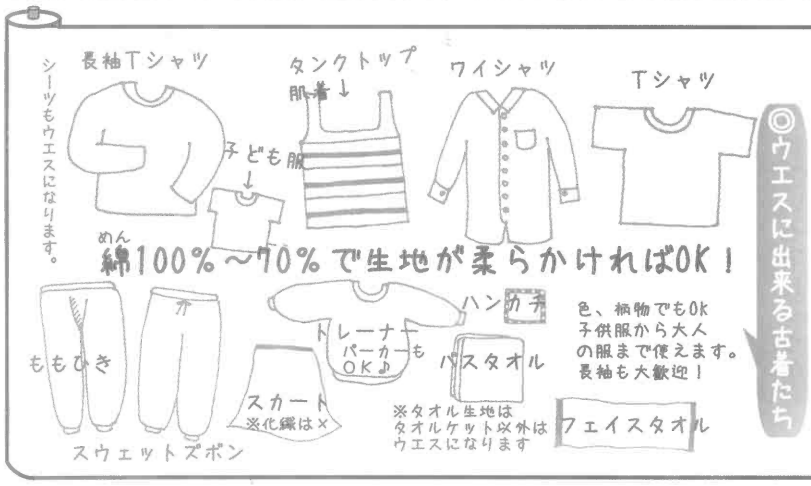
夜の交流会では全国の作業所との交流の輪が広がりました。仲間の分科会もありました。びわ湖クルーズに参加する仲間もいました。各自、自分の参加した取り組みを振り返り、楽しそうな表情をしていました。

二日間に及ぶ全国大会でしたが楽しい思い出と豊かな学びの時間でした。

（九内　康夫）

古着・タオル類大募集！

～もみじ作業所リサイクルグループ～



行事日誌

9月

2日　第三もみじ作業所利用者検診（採血日）
3日　第18回もみじ作業所まつり（台風・縮小版）
4日　東日本大震災支援職員派遣⑦
6日　第一・第二もみじ作業所利用者健診①
　　ふれあいプラザ当番／市立特別支援学校実習受入（～9日）
9日　第一・第二もみじ作業所利用者健診②
10日　東日本大震災支援職員派遣⑧
12日　第三もみじ作業所利用者検診
13日　市役所販売デー
14日　損保ジャパン販売／市就労センター：作業所見本市参加
16日　第一・第二もみじ作業所利用者健診③／プロレス招待
19日　三育学園バザー出店
20日　広島家裁より実習受入
21日　家族会9月例会
22日　広島駅南口販売
27日　生協ひろしま・助成金贈呈式来所／共産党吹田市議団市政調査・見学来所
28日　市立特別支援学校販売
30日　第一・第二もみじ作業所一泊旅行

10月

1日　西区福祉祭り出店
2日　アイラブ作業所祭り出店
3日　県社協実習受入2名（～7日）／松下氏見学来所／職員検診開始
8日　グリーンフェスタ出店／肢体障害者全国集会参加＆要員派遣
9日　エコ祭り出店
12日　損保ジャパン販売／もみじミニミニバザール（フレスタ）
14日　第三もみじ作業所一泊旅行
15日　もみじ作業所職員救急法学習会
17日　ゆめの木わかばより見学来所／県社協実習受入2名（～27日）
18日　ふれあいプラザ当番／広島市・第一もみじ作業所実地検査
21日　家族会10月例会／佐伯区ハイキング会・プルタブ等贈呈式来所
22日　中区ボランティア祭り出店ステージ参加／
　　きょうされん全国大会in滋賀参加（～23日）
23日　観音町教会バザー出店
24日　県社協実習受入2名～28日／東日本大震災支援職員派遣⑨
25日　市役所販売
27日　クラブ活動④
28日　ＪＤＦ支援法大フォーラム参加（東京）
29日　ソウェルソフトボール大会参加
30日　広島うたごえ祭典参加／障害児こども祭り参加
31日　もみじ福祉会第51回評議員会・第89回理事会

11月

1日　刑務官見学実習受入
3日　スケートリンク開場祭出店
6日　夢フェスティバル
　　西区民祭り出店
　　吉島小ＰＴＡバザー出店
7日　県社協実習受入-11日
9日　文教女子大実習受入-25日
　　損保ジャパン販売
　　もみじミニミニバザール
10日　クラブ活動⑤
12日　廿養祭り出店ろう学校バザー出店
　　もみじガイヘル講座①
13日　赤旗祭り出店
14日　県社協実習受入1名（～18日）
　　韓国仁川平和医療生協・見学実習受入
15日　観音中学職場体験学習受入（～17日）
　　市役所販売デー
16日　市立特別支援学校販売
17日　もみじ作業所「歯の健康学習会」
　　きょうされん虹の会：署名学習会参加
　　県立特別支援学校より見学来所
18日　家族会11月例会
19日　広島刑務所矯正展出店-20日
　　もみじガイヘル講座②
　　内部監査（随時）
20日　福島生協祭り出店
　　吉島中学校ＰＴＡバザー出店
　　もみじガイヘル講座③
21日　東区特別支援学級連合職場見学来所
22日　ふれあいプラザ当番
25日　きょうされん利用者部会学習交流会参加
26日　第一・第二もみじ作業所電気年次点検
　　もみじガイヘル講座④
27日　もみじガイヘル講座⑤
28日　中区特別支援学級連合見学来所
　　みつば会見学来所
　　ドリームハウスエレベーター工事指名競争入札
30日　きょうされん虹の会署名学習会

継続は力なり
～ 夢フェスティバル開催 ～

オープンカフェでほっこりと

今年で６回目になる「夢フェスティバル」を11月６日(日)に開催しました。

当日は、小雨混じりの天候ではありましたが、多くの皆さんに来て頂き、夢フェスティバルの目的である、多くの皆さんに夢トピア・ドリームハウス・第三もみじ作業所を知って頂き、交流を深めたいという目的を果たすことができました。

小雨交じりではありましたが、飲食コーナー、遊びのコーナー、フリーマーケット等、多くのお客様で賑い、お昼過ぎには売り切れのお店もあるほどでした。また、今年開所した第三作業所では、オープンカフェが開かれ、ヴィオラの演奏を聴きながら美味しいコーヒーとケーキを堪能されていました。

太鼓の演奏もわんぱくに♪

ステージでは、毎年恒例になっている山陽高校空手道部の演武、わっく・戸坂わんぱく太鼓による太鼓演奏、津田神楽団による神楽舞、新たなつながりとして地球ファミリーウィンドアンサンブルによる吹奏楽演奏と、こどもからお年寄りまで楽しめる中身となりました。

また、今回のもうひとつの目的でもある「東日本大震災復興支援」においても、多くの皆様に趣旨をご理解頂き、皆様から温かいご支援を頂き、関係者一同、深く感謝しています。収益金につきましては、東日本大震災復興支援の募金としてきょうされんを通じて寄付いたします。本当にありがとうございました。

これからも、地域の皆さんをはじめ、多くの方との交流を大切に、「つたえる」「つながる」「つくる」「つづける」の四つの「つ」を大切にし、取り組みをすすめていきたいと思っています。

東北支援募金お礼

がんばろう東北

◆東日本大震災「障害者・施設への支援募金」賛同者の方々（敬称略）

善正寺	五島　平夫	中野　斉子	山先　方江	
中川　裕子	面出　千鳥	芳谷　邦代	篠原　実子	
内藤美亜子	山口美恵子	久米　朱美	Ｋ構造研究所	
道田　　功（神崎学区社協会長）				

ありがとうございました。

尚、支援募金は2012年３月まで受け付けております。

郵便振替　振込先　口座：０１３７０－９－５９８４

名　義：社会福祉法人　もみじ福祉会後援会　池田　光

※通信欄に「東日本支援金」とお書き下さい。

シリーズ 障害者自立支援法 その16

いよいよ 新法「障害者総合福祉法（仮称）」法案　国会へ！

○前号でお知らせした通り、二○一一年八月末に「障がい者制度改革推進会議・総合福祉部会」にて『障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言ー新法の制定をめざしてー』がまとめられ、九月に蓮舫内閣府特命担当大臣に手交されました。以降、厚生労働省にて法案作成作業が進められ、本年一月からの通常国会に法案が提出される予定です。

○さて、「私たち抜きに私たちのことを決めないで」という障害者の願いのもと、五十五人の委員によって、一年余り十八回に及ぶ苦闘ともいえる議論の末まとめられたこの『骨格提言』、大変重い意味を持つものです。

この『提言』を尊重した法案の提出となるでしょうか。期待と不安が交差します。

○今回は、このシリーズで追って来た「願い」を振り返り、新たな法案が提示された時に、ぜひ着目して検証したいポイントをいくつかあげてみます。

●一番目はやはり利用者負担の問題。思い起こせば多くの利用抑制や施設退所者、あるいは自殺者まで出し、また違憲訴訟の「基本合意文書」でも核心部分であった「応益（定率）負担」の問題です。自立支援法の実施以来、幾度となく改訂され改善されてきましたが、法文から1割負担原則の条文が消えることはありませんでした。「原則無償」という『提言』の思いがこの度の法案にどう反映されているでしょうか。注目したいと思います。

●ふたつ目は障害程度区分認定の問題。介護保険と同様に、認定された区分の軽重によって利用できる事業や量が規制され、生活に必要な支援が制限されます。また多種多様な障害者の区分認定に適切に対応できているとはいえない不十分な審査システム。この区分認定制度が廃止され、『提言』の提示する「本人の意向が尊重されるサービス利用計画にもとづく支給決定」に変わるや否や、望まれない介護保険との統合問題も含めて、注目したいと思います。

●3番目は報酬のあり方と人材育成の問題。報酬の日割り計算システムや職員の常勤換算システム等の導入により、福祉労働者の身分保障は悪化を辿り、障害分野でも「福祉から人が去っていく」事態が急速に進んできました。『提言』の示すごとく、福祉労働者が「誇りと展望をもって支援を継続できる」ような報酬体系に変わるでしょうか。ここも注目点です。

●紙面の関係からもう1点だけ。医療問題のひとつ、付き添える親族がいない障害児者の入院時の支援の問題。これは我々も含め、多くの施設・関係者の現実の困難であり悩みです。『提言』にあるように「信頼関係のある介助者（ヘルパー）のサポート」を得て、健常者と同様に適切かつ十分な入院治療が受けられるようになることをぜひ実現したいものです。

（つづく）

後援会コーナー

2011年度後援会費を納入頂いている、個人・団体の皆様（敬称略）

政兼　桂子	東　恵美子
川口　芳也	玉浦　章平
酒見　直子	植田　治子
石口　俊一	月村　桂子
中谷　綾子	山先　方江
新谷　昌由	西亀　清美
佐々木陽子	中村美智子
坂　ちや子	
堀田哲一郎	
渡部　　清	
鷲見　紀和	
藤田　裕恵	

（2011年８月１日～11月11日）

もみじ作業所まつり及び夢フェスティバルにおきまして お祝いをいただきました。ありがとうございました。

宮原　信江　　山床　義明
野津　訓子　　西山　悦子
ヒヤマ製麺所　　家族会有志
虹のコーラス　　南観音女性会
観音新町町内会
羽衣町二丁目町内会
グラスリッチェン（藤島）

（敬称略）

伊藤　朋子 様　　三上　英子 様　　藤田　綾子 様
川崎　洋子 様　　藤岡泰治・享子 様　　よつば会 様
ヤマトナデシコ（匿名振込）様　　カンパ活動（もみじ分）
作業所カンパ箱　受付分　　作業所カンパ缶　事務所内分
ドリームハウス保護者一同　　ドリームハウス保護者募金箱

（2011年８月１日～11月11日）

ご寄付ありがとうございます。

輝け！New Face　よろしくお願いします！

坂根（さかね）　夕香（ゆうか）さん

はじめまして。10月から働かせていただいています。体を動かすこと、ものづくり、英会話の勉強、アロマテラピーなどが好きです。福祉の仕事は初めてなので、実際の現場で対応に戸惑うことも多々あると思いますが、早く仕事に慣れるように勉強して行きますのでアドバイスをよろしくお願い致します。

清水由香梨（しみずゆかり）さん

10月より、第三もみじ作業所のケーキグループで働くことになりました。初めての事ばかりなので、楽しんで取り組みたいと思います。様々な事を身に付け、仲間やもみじ作業所の力になれるよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。